

Q & A 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をただすことができます。

山本均 議員



今夏の観光の収穫は？
ロケーションボックス等で知名度が上昇

問 今夏の観光の動向はどうか？インターネットを活用した情報戦略としてどのようなことを実施したのか？

答 観光客数（7、8月の合計）は新島16402人（昨年比90・7%）、式根島13188人（同89・4%）となった。台風が発生と飛行便の減少がマイナス要因。

インターネットを活用した情報戦略では村のホームページや各観光協会が発信している。さらに各航路の空席状況の案内を提供できればと考えている。ロケーションボックスや映像のチカラコンテンツ事業で知名度が上がっている。ブロードバンドを活用したPRに努める。

問 新島村の産業の自走自立への道は？特産品開発を考える

答 村の就業者の動向を通して見た産業構造は、サービス産業が全体の4分の3を占め、圧倒的な存在感を見せている。このうち飲食・宿泊業は20パーセントで残りの多くの部分が税金を原資とする仕事の従事者になる。



にしきの最終便で式根島から新島へ。

問 そこで村長はどういった観点から産業育成の意義を見出し支援していくのか？

答 地域資源を活用して観光産業や村の

活性化ができるよう特産品開発を考えているが、目覚ましい成果は現れていない。産業団体と話し合いも行ってきたが、これからも関

議会にいきかう言葉

前号で紹介した現在の一一般質問のやり方では実のある結果が得られないのではないかと、そういった危惧があった。

そこで浮上したのが時間割り当て・質問回数制限なし、の方式。これは短い質問と回答を重ね、問題の核心に迫っていくというものである。スピーディに丁々発止の議論となれば、まさに議会中継には打ってつけ。

時間割り当てを質問者のみにするのか、回答者も含めるのか、また対質の形をとるには、席の配置を変える必要がある、検討課題は沢山ある。

何よりも大変なのは私たち議員の質が問われること。この点では常に問題意識を持ち、一層の精進が求められる。

係者と協議を重ねていきたい。

姨捨山伝説を乗り越えられるか？

外国人の雇用も展開していく

問 今の特養ホームが出来た当時、現代の姨捨山だ！と言われる

だが、至れり尽せりのサービスに直に風評は消えた。

近年は日本が人口減少社会に入ったことで働き手不足になり利用を困難にしている。

ではホームの実態はどうなのか？どんな対策をしているのか？

答

9月1日現在、総職員数74名（常勤換算63名）、このうち正職員31名、契約常勤職員15名、契約非常勤職員28名である。

対策は東京都社協やハローワークの説明等への参加、求人募集媒体の増、福祉系大学への求人（23校）、島内の民宿・商店へのポスター掲示を実施。今後は外国人雇用も展開していく。



小学校のプログラミング教育はどうなっているのか？

全児童・生徒、全教員にタブレット端末の支



NPOにいじま村こどもくらぶ主催のLEGOプログラミング教室。

給を検討

問

2020年度から小学校のプログラミング教育（以下「プログラミング教育」という）が必修化される。新島村の

答

現状はどのようなのか？2年後に向けての準備は大丈夫か？
文科省では今年度は「指導事例や指導手引書の作成」各

地域のリーダーとなる教員に対する研修」「校内で活用できる研修教材の作成」をし、来年度は教員研修や使用教材の調達など「教育委員会・学校における準備」の期間とし、翌 2020 年度にプロ教育の全面実施としている。

プロ教育には楽しさ、面白さ、達成感をもってコンピュータを様々な場面で活用し、より深めていけるツールとして ICT 機器は欠かせない。

村では小・中学校にコンピュータ室を設置し、一学年の児童・生徒がパソコンを一人ずつ使える環境を整えている。よりプロ教育の充実を図るのであれば全児童・生徒それに全教員にタブレット端

末を 1 台ずつ持たせることも内部では検討している。

プロ教育は新しく「プログラミング」の教材が作られるのではなく、すでにある各教科の単元の中に取り込んで実践していく。

青沼 弘 議員



なぜ三歳児未満の保育園の受け入れはできないのか？

子供・子育てで支援法で定める就労条件が必要

入所を断った理由は何か？



新島保育園の園舎と園庭。

答

当村には私立保育園がなく、公立の保育所が新島・式根島地区にそれぞれ一園しかないため、三歳児以上のクラスに待機児童

が出ないよう年少・年中・年長クラスに定員数を多く割り振っている実情がある。そのようなことから三歳児未満の定員数は

非常に少ない。

三歳児未満の保育の認定は両親及びその他の世帯員のいずれもが就労や疾病・妊娠・障害・介護状態で家庭での保育ができない状態にあるときに入所承諾をしている。就労の基準として子供・子育て支援法により、一日当たりの就労時間が（パートも含む）四時間以上、月 16 日以上勤務を目安とし、月 64 時間以上の雇用状態にあることが必要である。

入所を断った理由は、入所基準に世帯全員が当てはまらなかったと考える。

今後は入所希望者に対し、丁寧な説明を実施し、誤解・誤認が生じないよう注意していきたい。

前田 卓秀 議員



ライフガードの中身は？

救助員の資格者、延べ715人が活躍

問 夏季観光シーズンのライフガード業務の詳細を伺う。

答 平成30年度の海水浴場監視業務は一般財団法人・日本ライフセービング協会に委託した。

監視区域は新島が本村前浜、間々下、羽伏浦、若郷磯プール、若郷前浜。同じく式根島は泊、大浦、中の浦、



海水浴客の安全を見守る。本村前浜海水浴場。

石白川。その他村が指定する区域となっている。期間は1カ月間で、新島は8月1日、式根島は7月27日から実施した。時間は9時から

5時まで。勤務人員は延べ715人を下回らないようにし、また救助員の資格を有するものを配置している。

大沼 弘一 議員



島外病院を受診する際の交通費等の助成制度はいつやるのか？
12月補正、1月1日実施を目指す

問 助成制度は過去3回議会で質問し、村長から今年度中に実施するとの回答をいただいたが、大変期待していたが、本定例会では実施のための条例案、要綱案の提示がされず、必要な予算も計上されていない。従って再度質問する。庁内ではど

の様な体制で検討しているのか？その内容は？そして実施時期はいつからなのか？

答 現在、制度設計の最終段階で12月補正、1月1日実施を目指している。まだ検討中だが、全住民を対象に所得制限なく年4回、特定疾患名などの場合は8回を限度に交通費四千元、宿泊費四千元程度を医師による証明書の発行をもとに考えている。

問 昨年の台風等により浸食が進んでいた羽伏浦海岸だが、今年も多くの台風によりかなりの浸食が見受け

る。国・東京都に早急な支援を求める

る。



羽伏浦メインゲート前の護岸。浸食がひどい。

られる。メインゲート前の護岸ブロックの破損、下水道放流用浸透枘の破損、バイパス線の路肩法面の崩壊等の公共施設への直接的な

被害以外にも白ママ層断崖の大規模な崩落など、ここ数年の浸食は著しいものがある。羽伏浦海岸を守り未来に引き継ぐために何か考

えがあるのか？またメインゲート前は砂浜が無く遊泳やサーフィンが出来ない状態が続いている。来年に向け方策はあるのか？

答 公有施設では複数の施設で被害が発生している。村有施設は補修工事を実施したが、再度被害を受け補正予算案に計上した。白ママ層断崖の崩落や砂浜全体には現時点では村として解決になり得る方策の知見や財政力がなく、当面、国や東京都に早急な支援を求め要望を行っていき

きたい。

職員の定員管理は適正か？

問 村長は施政方針の中で「行政の職務は多様化、複雑化、専

門化し、住民のニーズに対応するため職員の効率的な配置、迅速な人員の増減を行っていく」と述べている。現在、村職員の定員管理は適正に行われ、職員の不足している部署はないのか？また村では異例の一般行政職の途中採用試験が行われたようだが、その理由と結果を伺う。

答 村の定員管理は平成18年度に適正化計画を策定し削減を行っている。現在、不足している部署があるので一般行政職の途中採用試験を実施した。6名の応募者があったが、各試験の結果により採用に至らなかった。不足の部署は課内での協力を仰ぎ業務を遂行している。また職員の採用までは臨時職員の

雇用も考えている。今後も社会経済情勢の変化等ふまえ住民のニーズに答えられるよう適正な人員配置を行っていく。

問 今夏の観光集客に

関・飲食店・観光客からいくつか声が聞こえてきた。前回の一般質問でも行った『産業団

木村 諭史 議員



観光集客等の課題を共有できる産業団体会議の実施は？

行政が主導してするよう検討する

問 おいて、関係機

関・飲食店・観光客からいくつか声が聞こえてきた。前回の一般質問でも行った『産業団

体会議』などでの意識共有・課題共有が必要と思われるため、改めて実施予定を問う

答 各団体の夏季の反省会を実施したうえで、全体の会議を実施したほうが望ましいと考える。

それらを集約し、実現可能なものは予算に反映したい。

問 それでは各団体次第で後手に回る。

委託・補助事業の一端として年間計画に組み込んだり、先に行政が団体会議の開催を決めて、各団体は事前に内部の反省会を促したり、前向きな姿勢を示すべきでは？

答 確かに待っていたら難しいので、行政が主導でできるように検討したい。

繁忙期の飲食店・宿泊業の観光客受け入れ体制をどうつくるか？

商工会の「商業振興計画」の政策提言に協力して実現する

問 今夏は来島客数に対して昼食・夕食を提供できる事業者が少なく、利便性・快適性を損なっていた。理由として飲食店の軒数減少に加えて、高齢化などのため夕食抜きサービスを行う宿泊事業者が増えたことも挙げられる。観光集客による経済振興、受け入れる宿泊業の容量と内情、飲食店の軒数と新しいサービスが同時に広がらないとひずみが生じるため、行政ならではの大局的な判断と次の一手を問う。

答 今夏の現状を見ると来島者への利便



飲食店・みやげ物店が並ぶ旧都道の通り。

性や快適性を損なっているが、繁忙期の対応は難しい状況にある。しかしこれ以上の飲食店減少は食い止めなければならぬ。平成27

年に商工会が作成した『商業振興計画』の中に具体的な政策提言があるので、徐々に実現できるように村としても協力していきたい。

島のルールと情報発信のガイドライン整備状況は？

産業団体会議で揉んでいく

問 今夏は式根島の観光スポットのコー

ガ石壁面への落書きや、不適切な場所での花火火災も発生した。島のルール／マナーを告知する効果的な方法は？また被害発生時の注意喚起の情報発信ガイドラインの整備・共有はされているか？

答 他の展望台などでも落書きが見られ、大変遺憾に思う。

島の素晴らしい景観を活かし、関係団体と情報を共有し、注意喚起をして島のイメージを損なうことがないよう努めたい。産業団体会議でもガイドラインを揉んでいきたい。